

5歳児に抱っこは必要か？

先週は保護者会へのご参加、誠にありがとうございます。冒頭のアイスブレイクでも、スライドでのご説明でも暖かく協力的にご参加頂き、職員一同とても感謝しております。日頃より何かと行き届かないことも多くご迷惑おかけ致しますが、有言実行、保育に邁進して参ります。

保護者会の中で、日々の生活と遊びの中にたくさんの教育的要素が含まれていることをお伝えしました。さくらしんまち保育園は乳幼児教育機関だと自認しておるところでもあります。乳幼児教育のベースは安全な環境、快適な生活、そして豊かな愛着関係です。子ども達はたっぷりの愛情を必要としています。怖い思いをした時、嫌な思いをした時、ちゃんと誰かが見ていてくれて、抱っこしてくれたり、優しくしてくれたりすることで、気を取り直すことができます。目覚ましい成長には相応の失敗がつきものですが、必ず自分を見ていてくれて、失敗した時には助けてくれるという保証があるから安心してトライすることができるのです。抱き癖が付くからと泣いていても放っておくのは教育的に得策ではありません。よって私たちはその子が必要とするなら、何歳だろうと抱っこしたりスキンシップをとったりします。年齢が上がるほど意外とあっさりです。

ハイパフォーマンスを発揮する人は往々にして根拠のない自信を持っています。そして周りにも愛情深く接します。それこそが乳幼児期に溜め込んだ言わば『愛情貯金』によるものです。それには大きな利子が発生し、その利子で周りを愛情的にうるおし続けます。金持ち喧嘩せず。愛情的に裕福な人は衝突より友好を求めます。人生のスタートを力強くすることは将来的な収入や健康、人間関係にも良い影響をもたらすとされています。

あれこれ御託を並べたところでつまるところは愛情ですね。保護者会で色々のご説明しましたが要はあの子達が大好きで、かわいくて、いとoshiiのです。何歳になっても抱っこさせて欲しいのはこちらかもしれません。

さくらしんまち保育園 園長 小嶋泰輔



園内研修 発表ポスター
2021年6月内田あかね

4月、0歳児クラスの子は大好きな保護者の元から離れて保育園で過ごし始めました。入園してすぐは安心できる環境から離れ、初めて『不安』な気持ちを経験します。そんな中でも先生たちにたくさん『不安』な気持ちを受け止めてもらい、応えてもらう経験を繰り返すことで、子どもたちの『不安』は『なんとなく安心する』といった小さい安心感に変わってきます。この写真は5月中旬に撮影したもので、この子の表情からも分かる様に、入園当初を振り返ると、少しずつですが職員との信頼関係が育まれてきているように感じます。(内田あかね)